

ヨシ群落保全基本計画改定のポイント

令和3年(2021年)1月

ヨシ群落の現状

- ◆ ヨシ群落面積の回復
- ◆ ヤナギの面積比率が増加
- ◆ 水位変動等の自然条件の変化
- ◆ 侵略的外来水生植物の侵入
- ◆ 企業やボランティア、NPO等の保全活動への参画

社会情勢

- ◆ 生態系保護⇒持続可能な循環共生型社会
- ◆ SDGs（持続可能な開発目標）
- ◆ 琵琶湖の保全及び再生に関する法律
- ◆ CO₂ネットゼロ

計画改定の視点

- ヨシ群落の現状と課題への対応
- 第五次滋賀県環境総合計画の考え方
「環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環」

これまでの課題

- 「ヨシ群落の質的な変化への対応」
…画一的な理想像を求めるヨシ群落保全の限界
- 「少子高齢化等による地域の関わりの縮小」
…行政主体の地域協議会の限界
- 「県のヨシ群落保全に関する事業量の縮小」
…全県的な維持管理事業の限界
- 「企業等がヨシ刈りをしたいが…」
…始めにくい、定着しない
- 「ヨシやヤナギの活用が進まない」
…ヨシ刈り等の保全活動の行き詰まり

改定のポイント

量的な造成から質的な維持管理へ

地域を支える持続的な取組へ

地域の特性に応じた保全
地域外の力を活かす
地域資源としての循環利用
保全活動の効果の可視化

SDGsへの貢献